

鶴崎校区 豊か 鶴崎 History map 歴史マップ

**豊かな歴史と自然に恵まれた
鶴崎は私たちの誇りです。**

History map

歴史マップ

三



鶴崎校区歴史マップ

豊かな歴史と自然に恵まれた鶴崎は私たちの誇りです。

1. 鶴崎踊りのブロンズ像

鶴崎踊りの起りは永禄3年(1560)の頃で、その後の主な大友宗麟が一時酒色にふけり政治を省みなかった事がありました。重臣戸次謙連(のちの立花道雪)は宗麟の気を和らげる為京都から舞子を招いて踊らせ正道にたち戻らせました。この時の踊りが鶴崎踊りの起源であるといわれています。



2. 正覚山 大音寺(浄土宗)

細川忠興が豊前小倉から肥後熊本に国替えになったとき、当時肥後領だった鶴崎に立ち寄りました。その際に宗廟がないことを憂慮して熊本人で当時小倉の寺の住職であった専蓮社団を和尚に懇請して寛永10年(1633)創建されました。それから200年間は七堂伽藍の大きなお寺でしたが老朽化し解体し、再建されました。現在の本堂は昭和47年に鉄筋コンクリート造りとなりました。



3. 海龍山 福正寺(浄土真宗西本願寺派)

寛永12年(1635)僧善西により創建される。善西は細川侯が小倉藩主だったころの、お抱えであったが、鶴崎に移った詳細は明治26年(1893)の大洪水により流失し、記録は残されていません。末寺として2寺あったが、坂ノ市の専行寺、広島の安芸の来生寺として移転しました。



4. 鶴崎 愛宕社

養老元年(717)天竺龍海山より天降った神仏合体の神とされ延命地蔵菩薩といわれています。神としては愛宕將軍として地を守り、仏としては地蔵菩薩として祀られました。神は厄除減の、地蔵菩薩は世に出るまで厄除に代わって民衆の苦難を救うとされています。細川家の小倉より熊本藩への国替えの際には鶴崎城(お茶屋)の裏鬼門の守護として厚い信仰がなされたと伝えられています。



5. 雲鶴山 法心寺(日蓮宗)

加藤清正によって慶長6年(1601)に創建され、のちに熊本藩細川家の準菩提寺となりました。仁王門には金剛大力神が安置され、佐賀門の早吸日女神社から移されたといわれています。清正公を祀る清正公殿や清正が立ち寄った際につきさした杖から芽が出て成長したと言えられている樹齢400年の市指定の名木「逆さ銀杏」が有名です。なお、清正の遺徳をしのぶ二十三夜祭には町中が大賑わいとなります。

6. 毛利空桑記念館 遺品展示館

毛利空桑は寛政9年(1797)大分市常に生まれ船足万里、脇蘭室に師事、熊本藩・福岡藩で文武両道にはげみ、ふるさと鶴崎に帰郷して多くの人々を教育しました。九州各地で言葉に及ばず中国、四国、近畿からも門人門徒が集まりました。明治維新では土佐や府内での勤皇の有志、長州の吉田松陰などと話し合って新しい世にすることを働きました。空桑は、剛毅、不屈、礼節をもって任じ、その生涯を通して人としての生き方を熱く説き続けました。「文ありて武なしは眞の文人にあらず」「武ありて文なしは眞の武人にあらず」を信条として教えました。空桑は明治17年(1884)に湯布院で静養したとき夕日に輝く湖を見て「金鱗湖」と名付けました。その年の12月88歳で亡くなりました。

7. 医王山 東巖寺(臨済宗妙心寺派)

元亨元年(1321)、大友貞親の創建といわれ、当時は天台宗の広大な寺院であったと伝えられています。明治時代になって臨済宗となり今日に至っています。



8. 国宗 天満社

室町時代、正平5年(1350)ごろ京都山城国に信仰心の厚い宇田国宗という刀鍛冶がいました。諸国を回りこの地に泊まったとき夢枕にあらわれた大神にお告げを頂き、涙袖をぬらして止まらずついに剃髪して大神の社殿を建立しました。そして脇に庵を結び移住しました。川に抜まれた琵琶の首のような土地でしたので琵琶庵と名づけました。以来刀匠国宗の名は豊後の名刀鍛冶として広く伝わり、この地は国宗村と称されるようになりました。



9. 宝劍山 神護寺(臨済宗妙心寺派)

寛永18年(1641)に細川家四代細川光尚により創建され、のちに八幡宮の社寺となりました。それ以前に僧中栄が大永7年(1527)に開山し庶民信仰を高めたといわれています。禅宗の神社を守る寺としては全国的にも稀なことといわれています。細川歴代藩主の位牌が祀られ毎年供養を行っています。



10. 劍八幡宮

昔宇佐神宮に紛議が起り神宝七鉾の内三鉾が行方不明になってしましました。合議の上神處を同うたところ、三鉾の剣は長く鶴崎の地に鎮座しているとのお告げがあり、のち正保2年(1645)11月に当所櫛木の大木より三鉾の神劍が見つかりました。住民大いに驚き崇いを領主細川家へ届けました。時に丁度細川公利が誕生されこれを吉祥として翌、正保3年(1646)社殿を造営され、のちに鶴崎鎮守の氏神さまとなりました。



11. 出水神社

熊本出水神社の御分靈を明治15年(1882)にお祀りし創建されました。初代、細川藤孝、2代忠興、忠興夫人の玉子(ガラシャ)、3代忠利、8代重賢他、細川歴代藩主が祀られています。また町内にあった秋葉社・亀岡社・金比羅社・佐吉社も合祀されています。現在の社殿は、大神宮にあったものを昭和37年に移築したものです。



12. 伊能忠敬宿泊の屋敷跡

忠敬が鶴崎を測量したのは66歳のときでした。文化7年(1810)2月と12月の2回です。そのときに泊まったのが当時の宿泊所である和泉屋八右衛門宅です。

13. 大水害の水位表示

昭和18年(1943)9月20日10時に鶴崎地区は大水害におそれました。そのときの推定最高水位標高は6m62。現在の市道標高(東鶴崎3丁目1番1号の地点)より2m92も高い潮流が押し寄せ多大な被害を引きました。翌年の昭和20年にも大水害がありました。

14. 鶴崎城跡 肥後熊本藩鶴崎御茶屋跡

加藤清正は港として鶴崎の重要性を認め堀川を開いて、港、宿泊所(御茶屋)を大友時代の鶴崎城のあとに造りました。そして後年、細川氏もこれを受け継ぎました。



15. 秋山玉山 旧宅跡

秋山玉山は元禄15年(1702)に生まれ、医師だったが学者をして幕府の学校昌平館に入学した。熊本藩細川侯より学問指南書を命ぜられ教育に尽力しました。学校の必要を唱えて運動を起こし藩主細川重賢のとき藩校「時習館」を創設。玉山はその学校の教育運営に当たり大きな功績を残しました。



16. 鶴崎大神宮

伊勢神宮の遷持所として明治政府と伊勢神宮により造営されました。周辺の土地より鎮座地は高く、昔は亀丘と呼ばれていました。



17. 熊本藩 鶴崎作事所跡・有終館跡

鶴崎作事所は江戸時代参勤交代船などの造船修理の場所でした。後明治の初め毛利空桑・高田源兵衛によって洋式軍隊の制度を取り入れた現在の兵学校に当たる有終館を作りました。



18. 荘巖山 光福寺(淨土真宗東本願寺派)

天正17年(1587)偶然(カンナン)上人の建立による淨土真宗の寺です。森町の専想寺は蓮如上人の真弟子天然上人の開山によるものですが、その六代目の兄弟が偶然上人です。中鶴崎にありましたが昭和37年(1962)の大火により昭和43年現在地に移転しました。12月の報恩講など大事な法要の際には雅楽の演奏がおこなわれます。



19. 地蔵山公園

鶴崎を一望できる高台に延命地蔵、日蓮大師が祀られています。加藤清正が肥後守のころ(1596~1614)鶴崎橋付近は志村渡し場として交通の要所であり渡し場を守る菩薩として延命地蔵を祀り、清正はこの山を朝日山と名付けました。法心寺18世日蓮住職によって宗祖日蓮大師を地蔵堂内に供せられ以来法心寺檀家の人々により、お守りされています。



23. 脇蘭室の墓

蘭室の高弟帆足萬里の書にあります。「文教脇先生墓」と刻され、昭和32年大分県文化財に指定されています。蘭室は明和元年(1764)に生まれ、三浦梅園に師事その才能を認められ肥後藩(熊本)の学校(時習館)の教師となつたが乞われて鶴崎に帰り塾を開いて多くの本や詩を書き弟子を教えました。勤皇家で名高い高山彦九郎も会いにきました。



24. 寺司地蔵尊

天正15年(1587)薩摩の島津勢を計略を用いて打ち破った女武将吉岡妙林が勝利した場所で寺司浜の戦い又は乙津川の戦いといいます。この戦死者を合葬した千人冢と呼ばれていた土地の真上に安置されたのがこの地蔵尊です。以来地元の人々によって供養信仰され続けています。



25. 亀齢山 永安寺(臨済宗妙心寺派)

室町時代の元亀2年(1571)、大友宗麟の命を受けた吉岡宗穂が建立しました。後天正14年(1586)、島津義久に攻められ立派な寺院も全部焼けてしましましたが、のち薄雲仙和尚が慶長2年(1597)に乙津川の戦いなどで野辺に散った人々を供養して小さな寺を建てました。宝永2年(1705)、当時天領として栄えていた乙津港のあるこの地に寺院を移し再興しました。明治の初めごろまでは全國から修行僧が集まる臨済禪寺として盛況を呈したと伝えられています。



26. 後藤頼田 旧宅跡

思想家として芸術家として名高い後藤頼田は文化2年(1805)に現在の大分市乙津町に生まれました。日出の帆足萬里に漢學を竹田の田能村竹田に学び、また兵法、砲術をも習得し古代文学、歴史・地理学・神道をも習得した幅広い実践的な文化人でありまた学者でした。毛利空桑、長州の高杉晋作と共に尊皇の運動を続け明治15年(1882)に78歳でなくなりました。亡くなる前に自分の墓を乙津の永安寺に建てました。現在も大切に保存されています。



27. 乙津天満社

乙津は鎌倉時代から江戸時代まで海上交通の拠点であった。乙津という地名は良い港という意味である、江戸時代末期は天領として栄え、物資の集散地であった。天満社はこの地域守り神として万治3年(1660)創建されました。

